**№39　テーマ『意志の強い人間になる』**

**講話日2015年2月6日**

**皆さんこんにちは。今日は今年に入って1回目の講義であります。今日は意志の強い人間になるというテーマでお話をさせていただくことになっております。私の感性論哲学では、人生はドラマ。そういう原理で人生を考えるということになるというと、人生において本当に大事なものといえるものは二つしかない。何かというと、意志の力と愛の力だ。意志の力とは、物事を最後までやり抜き、やり遂げる力が意志の力。それから愛の力とは、素晴らしい人間関係をたくさん作るということができる力。この二つがあれば、どんな仕事でもうまくいくし、また必ずや幸せにもなれるという原理であります。人生いろんなことがありますけど、やはり意志の力と愛の力さえあれば、いろんな問題も乗り越え、そして成功と幸せを手に入れることができる。そういう意味では、意志と愛というのは、人生を生きる“車の両輪”とも言えます。どちらが欠けても、物事はうまくいきません。意志の力とは自己中心的な心の働きで、愛の力とは他者中心的な心の働きなんですよね。自己中心性と他者中心性が相まって両輪となり、初めて社会を生き抜く力というものが作られていくわけであります。**

**愛なき意志は人を傷つけることなしには、その目的を実現することができない。また意志なき愛は人間を堕落させる。甘やかしになってしまいます。愛だけでは人間を堕落させてしまう。甘やかしてしまう。意志だけでもあまりにも自己中心的に偏りすぎて、人を犠牲にするようなそういう仕事の仕方や生き方になってしまいます。とにかく、意志と愛の両方とも常にバランス良く使って生きるという力を作っていかないと仕事もうまくいきません。また人生様々な問題もなかなか乗り越え難くなってきます。まずは、意志の強い人間なるということが、自分自身の人生を成長させて、そして形作っていくための柱になりますので、まず今日は意志の強い人間になるためには、どういう努力をしたら良いのかということでお話をさせてもらいたいと思っております。**

**意志が強いと言うと、なんとなく理性的な人間じゃないかというイメージが非常に強いと思うんですよね。確かにこれまでの哲学や心理学では意志の強い人は理性的な人だと言われてきました。これまでの哲学では、意志が強いということは自分のしたいことは我慢して、しなければならないことを最後までちゃんとやり遂げることができる…そういう状態を意志が強いと言ってきたんですよね。意志が強いということは我慢できる人だというイメージでした。ちょっと前までは我慢できないような奴はダメだと言われてきたんですよね。だけど、何かを自分のしたいことを我慢して、社会的にしなければならないことを最後までやり遂げる力…それもないことはないのですが、我慢しなければならないものが片っぽにあるだけ、すぐにその意志の強さには限界があるという風に考えることができます。我々が人生において望む意志の強さというのは、「不撓不屈の意志」どんな困難でも乗り越えていくぞという意志の強さが人生においては望まれるわけであります。どんな困難でも乗り越えていくという意志の強さは、理屈抜きのところにその根拠がなければならない。**

**では、その意志の強さというものを支える理屈抜きの根拠とはいったい何なのか？ 理性的に作られたような意志の強さというのは、理性で作った作為的なものなので、何かをやり始めても状況・条件は変わってきて、実践することが難しくなってくる。理性が止める理由もちゃんと考えて、そして止めてしまうというようなことになってしまいやすい。作為的に作られた意志の強さの限界なんですね。**

**だけども、我々が人生において望む意志の強さは、不撓不屈。そういう意志の強さである。いったい意志の強さを理屈抜きで支える原理とは何なのか？ 意志は基本的に自己実現の力という風に言えます。意志は自己実現の力である。ということは、本当の自分というものをちゃんと実現していくというか、形あるものにちゃんと成長させ、自分自身を完成させていく…そこに意志の強さの働きの役割があるわけですね。意志が自己実現の力であるならば、実現する自己とはなんなのかを考えなければなりません。**

**本当の自分とは何なのか。感性論哲学では、人間の本質は感性だ。命の本質は感性だ。宇宙の究極的実在の感性だ。あらゆるものは感性によって支えられ、また感性によって生かされているんだということのお話をしているわけですけど、我々は私・俺・自分という風に言っておる本当の自分とは、命から湧いてくる欲求のことなんですね。欲求がないということは俺がないということ。欲求があるということは俺があるということ。だから、「何がしたいの？」と言われて、「いや別に特に何かしたいってことはありません」と言う人は、実は自分のない人なんですね。自分にしたいことがなければ結果として他人から言われたことをさせられてしまう。そうならざる得ない。そういう意味では、欲求がなければ、したいことがなければ、人に言われたことをしていかねばなりません。それは一種の奴隷の人生だ。家畜の人生だ。やっぱり、自分の中に「俺はこんなことがしたい！こうなりたい！」という欲求があって初めて自分の人生を形つくっていくことができるわけであります。欲求こそ、我々は私・俺・自分と言ってるものの本体だと。だから自己実現の人生とは、自分の欲求を実現する…そういう人生だと。自分の欲求を実現するために我々に求められているものが意志の強さ。意志の力と言うことができるものであります。**

**意志の強さというものを持ちたいならば、意志が強い人間になりたいならば、我々は命から湧いてくる欲求というものを持たなければならない。意志の強さは欲求の強さであり、また欲求の大きさである。意志の強い人間になるためには、命から理屈抜きに湧き上がってくる欲求が強いという、そういうことが必要になってくるわけであります。意志の強い人間とは決して理性的な人間ではない。意志の強い人間とは欲求の強い人間である。物事を最後までやり遂げていく、あるいは自己を実現していく力というのは、やはり命から湧いてくるという欲求がなければ、欲求を実現するという行動力が出てきません。命から湧いてくる欲求はまさに行動力・実践力の原理であります。また命から湧いてくる欲求がなければ命は燃えることがない。何かに一心不乱に関わってそして命を燃やして生きていくという仕事の仕方や人生というのは、欲求がないと燃えるということがない。本当に真剣に関わるということはできない。**

**多くの方々は義務と責任感で仕事をしていることが多くて、本当に命から湧き上がる欲求、燃える命を持って仕事をするという状態になかなかなれないんですよね。どうしたら命から抑えがたき欲求が湧いてくるか。命から抑えがたき欲求が湧いてくる人間にどうしたらなれるのか。これが非常に大事な人生を生きる力を作ってくれる原理なんですね。人生は燃えてこそ人生。命から理屈抜きに湧き上がるものがあってこその人生。そういう抑えがたき欲求をどうしたら自分のものにして仕事し、生きることができるのか。そのためにはどういう風なことをすれば、命から抑えがたき欲求が湧いてくるか。強い欲求を持った人間になるための方法論を知る必要があるわけであります。**

**どうしたら命から抑えがたき欲求を作ることができるのか。今の時代は多くの方々が命から激しい欲求が湧いてこないで、もう一つ煮え切らないないような生き方をしているという状態の人が非常に多いわけですよね。理性で生きて感性が燃えていない、という状態の人が多い。どうすれば我々は燃えて生きることができるのか。どうしたら命から湧き上がるものを作ることができるのか。そういう方法論を考えていなければなりません。**

**これには二つの原理がありまして、まずは人間の本質は心と言われるわけですけど、心というのは何なのか。心は意味と価値を感じる感性。心も感性なんですね。人間の心とはどういう感性か。意味と価値を感じる感性である。人間は意味を感じないとやる気にならない。価値や素晴らしさを感じないと命に火がつかない、燃えてこない。やる気と言うか、そういう欲求というものを湧き出させるような状態に持っていくためには、我々は物事の意味や価値、値打ちや素晴らしさ、すごさを物事に感じるということが非常に大事なこと。意味を感じればやる気になる。素晴らしさを感じれば命が燃えてくる。凄いなあと思ったらそれが欲しくなるとか、それをやってみようと思う気持ちにもなって湧いてくるものが出てくるわけですね。仕事をしていく上で大事なことは、今自分のやっている仕事の意味や価値、値打ちや素晴らしさをとことん追求していけば、誰でも今自分のやってる仕事に情熱を感じる、打ち込める、やる気になるという状態を作っていくことができます。**

**どんな仕事でも他の仕事にはない、独特な素晴らしさを持っています。プロとして仕事をしていくことをやっていくからには、我々は今自分のやっている仕事のプロなんだから、その仕事の本当の素晴らしさというものを知っていないと、プロとは言えない。そういうことを是非考えてみてもらいたいと思います。この仕事の本当の素晴らしさを一番よく知っているのは「俺だ」と言える自信と誇りを持って仕事をしていける自分を作っていかないといけない。そのためには今自分のやっている仕事のどこが素晴らしいのか、今自分でやっている仕事の社会的な意味や価値は一体何なのか。どこに素晴らしさや凄さがあるのか。そのことを理性で考えるんですね。理性で物事の意味や価値を考えると、感性が感じるようになってくる。感性が意味を感じたとき、命に火がつく、やる気になる、欲求が湧いてくる…そういう状態になってくるわけであります。とにかく感じて欲求が湧いてくる状態にならないと行動力・やる気は出てきませんからね。これは是非グループを作って、皆で自分たちがやっている仕事の社会的意味や人生における価値とは一体何なんだろう。自分たちの仕事の素晴らしさはどこにあるんだろう。そういうことを皆で話し合って、お互いに自分の気づきを教え合って、だんだんだんだんと自分たちのやっている仕事に打ち込めるという自分を作る、またそういう仲間を作る。そういったことを是非やってみてもらいたいなと思うんですね。**

**そういうことをしないと、ほとんどの仕事が惰性で流されてしまっている場合が多いんですね。意味や価値を感じながら仕事をしているというよりは、仕事があるから、やらないかんからやっているという。そうやって日常を過ごしてるということになってしまっている場合が多い。惰性とは言わないまでも理性的に義務と責任感で仕事をしている…そういう状態も多い。しょうがない、いやいやながらやっている状態のまま義務でやっている。責任感で仕事をすることも、これも理性的に責任を果たさなければならないからやっている。理性的な苦しい辛い仕事の仕方になってしまっている。ほとんどの人がそういう理性的な責任感で仕事をしている。あるいは義務としていやいやながらやっている。そういう仕事の仕方が非常に多いように一般的な会社では見受けられます。それとあとは義務と責任感もあまり感じない、とにかくは仕事があるからやっているだけ。惰性に流された仕事しかやってない仕事の仕方も非常に多いです。これではやっぱり本当にプロとしての仕事の仕方とは言えません。機械的に人に使われて命令されてやっているという仕事の仕方の段階なんですね。本当にプロとしての意識を持って誇りを持って仕事していこうと思ったら、自分の仕事に意味や価値、値打ちや素晴らしさを感じるという感性がなかったら、プロとしての値打ちのある仕事の仕方は出てこないと思います。**

**今日の学校教育というのは、知識や情報や事実は教えてくれるんですけど、物事の意味や価値、値打ちや素晴らしさを考えたり、またそういうことを教えてくれるような形になっていない。そういう教科書がない。そもそも教科書には知識と情報と事実が書かれているわけで、評価、意味や価値があまり出てこないのが教科書の一般的な内容であります。今の人たちはたくさんの知識や情報を持ってるんですけど、意味を感じて燃えるということにはなりにくい教育を受けてきてしまってるんじゃないかと思うんですね。だけどやっぱり受験や就職のために勉強するということではなくて、社会に出て多くの人に喜んでもらえるような素晴らしい価値ある仕事をしていこうと思ったら、今自分がやっている仕事に意味や価値を感じていないと、お客さんの方でも感動するとかが出てこない。やっぱりプロの仕事というのは、素人の人たちから見て「さすがプロだな」と思わせるものでないと、プロの仕事とは言えないんですよね。仕事をしている人自身が、その仕事に誇りを持って、意味を感じて、価値を感じて、素晴らしさを感じてその仕事をしている姿が大事であって、仕事をしている人の命が燃えてないと、お客さんはその仕事に意味や価値、素晴らしさを感じてくれるということになってこないと思います。**

**社会に出れば、知識や情報よりも意味や価値を感じるという感性の方が大事な役割と言うか、大事な問題になってくるんだということを考えてみてもらいたいと思うんですね。ぜひ、もうすでにそういうことをなさってるかもしれませんけど、会社の中で今自分たちのやっている仕事の意味や価値、素晴らしさを皆で語り合って、そして自分が気づかなかった素晴らしさに他の人が発言してくれたことで気づいて、自分も成長していける…そういう風なお互いがお互いを教え合って成長していく会社になっていったら素晴らしいなと思うんですね。命から欲求が湧いてくるという、やる気になるという原理として、意味や価値を感じる感性を作らなきゃならない。これを第一の方法論として考える必要があると思います。**

**意味や価値に答えがあるわけではなくて、いくらでも掘り下げていくことはできる。いくらでも意味は深くなるし、いくらでも価値は高くなる。無限の成長・発展があるのが意味の世界。答えがあるわけではないんですね。もっと深い意味、もっと高度な価値を作り出すことができる。どれほどの深さを持った意味を感じているか、どれほど高度な価値を感じているか。そのことによって同業他社との差別化ができて、他社にはない素晴らしい仕事の仕方というものができていく。意味と価値を感じることの大切さをもう一度よく考えてみてもらいたい。プロとして仕事をしていこうと思ったらお客さんに「さすが」と言わせる、そういう水準の仕事の仕方を目指していかなければならない。客に「さすが」と言わせようと思ったら、仕事をしている本人がその仕事に燃えていなければならない。そのためには意味や価値を感じなければならない。そういうことなんですね。**

**プロの仕事の仕方とは、前々からも少しずつお話をしてますけど、プロはアマチュアとは違う。アマチュアは自分の楽しみだけ。プロは金を取って、金を出してくれた人に対して、何かしら役に立つことをするというのがプロの仕事。金を取って仕事をするからには、堂々と金を取れるような仕事の仕方というものを考えていかなければならない。堂々と金を取ろうと思ったら、客に「さすが」と言わせないと、堂々とお金が取れん。半端な仕事の仕方で金を取ろうなんて、おこがましい。これだけのことをしてくれたのだから、これぐらいの金は当たり前、と思って快くお客が金を払ってくれるというものが、プロの仕事というものの水準であります。そのための原理は、仕事をしている本人が仕事に意味や価値、素晴らしさを感じながら仕事をしている…それによって客を感動させ、さすがと言わせる、そういう結果が出てくることになるわけであります。**

**もう一つ欲求が湧いてくる、やる気になるという原理はなんなのか。理性を手段能力に使って命に問いを発する。どういう問いか。これには三つの問いがありまして、どんな人間になりたいのか。どんな仕事がしたいのか。将来どんな生活がしたいのか。これが人間として人生を生きていくための人間的な欲求というものを命から湧き出させる方法論なんですね。どんな仕事がしたいのか、どんな人間になりたいのか、人間だからどんな人間になりたいのかということを自分で決めなければならないと。自分でこんな人間になりたいというものがなかったら、結果として目標がないものですから、現実に影響されて流されて、自分を見失ったような生き方になってしまう。まず人間なんだからどんな人間になるかは自分で決めなければならない。これも人生哲学の非常に大事な課題であります。**

**人間とは男と女だけ。だから男であれば自分が自分に対して「お前どんな男になりたいんや」と自分に問う。そして自分の命から「俺はこの男になりたい。俺はこんな男になってみたい」それらを引きずり出す。こんな男になりたいという欲求、それが自己実現の原理になる本当の自分というものを引っ張り出したということになるわけですね。こんな男になりたい=欲求ですから、その欲求を実現していくことによって自己実現ということが達成される。**

**女性もどんな女になりたいのか、どんな妻になりたいのか、どんなお母さんになりたいのか、そのことを自分に問うて、そして自分なりの目標を持って、そうなれるように頑張るのが人間としての生き方なんですね。理想、目標がないと今何をしていいかわからないということになってきます。理想があって初めてそうなれるように努力する、頑張ろうという生き方が出てくるわけですね。だけどなかなかどんな男になりたいのかを自分に問うてみても、こんな男になってみたいというものが出てこない人も多分随分といらっしゃるんじゃないかと思うんですけども。その場合はとにかく俺という男は一体どんな男になりたいと思っている男なのか、そういう男探しをせないかん。そのためにいろんな本を読んだり、いろんなドラマを見たり、いろんな人に会ったりなんかして、自分のなりたい男像を求めていく。そのおかげで少しずつ命から欲求が湧いてくるという状態に自分自身を持っていくことができます。自分ながらどうなってしまうのかわからない、適当にやっておったらなんとかなるんじゃないのという生き方をしてる人が非常に多いんですよね。**

**経営者なら一体どんな経営者になりたいのかと自分に問うて、自分が理想とする経営者像を常に見つめながら、そういう経営者になれるように自分自身が努力する、頑張る。それによって自分らしい経営者と、本当に理想とする経営者としての在り方が実現されていくことになるわけであります。どんな営業マンになりたいのか、自分自身の今やっている仕事の人間としての理想を常に思い浮かべながらそうなれるように努力する。これが人間としての生き方の基本なんですね。目標は定めないと今何しているかわからん。**

**だから会社なんかでもやっぱり事業計画があり、目標を設定するからそのために今何をしておかなきゃならんか、今どういうことを勉強しないといけないか、今どういう準備をしておく必要があるかが、はっきりしてくるわけですね。そういう目標は設定されないと今自分が何をしたらいいのかはっきりしない。これはまさに自分の生き方を見失ってる。自分を見失ってる。そういう状況で、結果として適当にやっておったらなんとかなるんじゃないかと、そういう曖昧な形になってしまいます。とにかく、どんな人間になりたいのか、どんな男になりたいのか、どういう女性になりたいのか。それらも仕事と関係させて、建築業・建設業という仕事をする人間として、どういう人間性、人格というものを目標にしていったら良いのか。いろんな本を読んだり、いろんな人の話を聞いたりなんかして、自分なりにそういう目標とするべき理想像を作っていく。そのことによってだんだんだんだん自分の人生がはっきりしてくるわけであります。そうしないとブレないというか、揺らがないというか、迷いのない人生、悔いのない人生を作っていくことができないんですよね。ちゃんとした目標を立てないと。とにかく人間なんだから、まず人間としてどういう人間になるかを自分で決めなければならない。是非考えてみてもらいたいと思うんですね。**

**次は、どんな仕事がしたいのか。自分自身が就職をして建設業という業界の中で働いている。その中でも自分の本当にしたい仕事は何なのか。どういう家を作りたいのか。技術畑でもただ習った技術を使っているだけではなく、業界を発展させることができるような新しい技術の開発とか、いろんな自分なりの仕事の目標、具体的な自分の仕事の夢を仕事の中で持つことが非常に大事。それがないと、ただただ教えられたことをやっている…受け身の仕事の仕方で終わってしまう。今は激動の時代と言って、あらゆるものが原理的変革を求められておる時代なんですね。何ひとつとっても今のままでいいというものはない。そういう時代です。あらゆるものを全て根底から原理から変えていかなければならない。そういう時代になってきております。今の自分に置き換えても同様。今のままで良いわけがない、では、どうするか？ どう変えるんだ？ なにかしら今までにない新しい水準のもの、次元のものをクリエイトする、作り出すという意欲を持って仕事に関わっていかなければならない時代であります。**

**基本的に我々は皆、何故に生まれてきたのか？ 人間が生まれてくる理由というのは歴史を作るため。皆新しい時代を呼び起こすために生まれてきたんだ。自分が生まれて来るということは、そのことによって新しい時代を作っていくという、そのことに関わらされてしまうことになりますので、我々が生まれてくるのは何のためか、それは歴史を作るためだ。では、今自分がやっているこの仕事において新しい時代を作るとはどういうことなのか。まだ誰もやったことがなかった、俺が最初だというものを、何かしら自分なりに作り出すような、クリエイティブな仕事の仕方というものを我々は求めていかなければなりません。でなければいつまでも保守的な、人に言われて仕事しているという状態で終わってしまう。積極的に一歩でも、何かちょっとでも違った、より優れたものを作り出す。ちょっとでもいいやり方を考える。クリエイティブな仕事の仕方が非常に今の時代においては大事であって、どの業界においてもそういう精神が今は望まれてるわけですね。言われたことを忠実にやるということも大事なんだけど、それ以上に何かしら自分なりの創意工夫を加えて、一歩でも仕事の仕方を前進させる、発展させる…そういう意欲を持った仕事の仕方をしていくことが大事。その意味においてもどんな仕事がしたいのか、建築業・建設業においての夢を具体的に持ちながら、そういう仕事ができる力を自分の中に作っていくと同時に、会社に対してそういう提案をして、自分の提案が会社の未来を作っていくような形も考えていかなければなりません。**

**どんな仕事がしたいのかという問いかけに対して、「俺はこんなことがしてみたいんだ」という建設業の中でも「こういうことをしてみたい」という夢を具体的に持つ。そのように命から欲求を引っ張り出す、抑えがたき欲求が湧いてくる自分を作るということができるわけであります。**

**とにかく、今の時代は変動の時代だ。歴史そのもの、時代そのものがこの時代の中に生きる人間に対して、「激しく変われよ」と叫んでるんですよね。他社と同じような形の家を作るんじゃなくて、一見しただけで「これはアサヒグローバルや」と皆に言ってもらえるような独特な形、機能というものが必ずあるはずなんですよね。多くの人に意味や希望を与えるような、多くの人を刮目させる、多くの人の目を開かせるような、家の形、機能的なものが必ずあるわけです。時代というのは常に新しいものを作っていくんですよね。時代が変わればやはり家の形も変わってきます。また家に付随したいろんな内容も時代によって皆変化していきます。その一つひとつが皆その仕事に関わる方々の提案によって作られてくるわけなんですよね。あれは歴史を作るために生まれてきた。あれは新しい時代を作るために生まれてきたんだ。この仕事において新しい時代を作るとはどういうことなのか？ そのことも是非考えてみて、そして自分なりの夢を掲げながら会社に貢献し、仕事をしていって欲しいです。「どんな仕事がしたいのか」という問いかけに対して「俺はこんなことがしてみたい。俺は建設業の中でこんなことをしてみたいんだ」という欲求を持って生きる。理性によって問いを発することによって、命から欲求が湧いてくる、答えが湧いてくる…そのようにして抑えがたい欲求を持って生きる人間になれるわけですね。**

**最後の3番目は、将来どんな生活がしたいのか。将来どんな生活がしたいかと言っても、別に貧しい生活がしたいわけじゃないので、「こんなリッチな生活がしたい」あるいは「将来田舎に行って土地を買って畑を耕してそして自給自足の生活がしてみたい」とかね。いろんな将来の自分の生活に対する夢や希望や理想があると思うんですけど、そういう将来どんな生活をしたいのかということを自分に問うて、何かが出てくれば、そのために今何をするか、そのために今どういう準備をするか、そのためにはどういう風に働くか、そのためにお金を貯めるか、どんなことを勉強するかなど、全部決まってくるわけですね。自分の人生を我々は作っていくことができる。「将来こんな生活がしたい」という欲求が命から湧いてくることによって、今の自分の生き方が決まるんですよね。それがないと、今何をしていいかわからない。だからなんとなくその日その日を、その日ぐらしで適当に仕事し、生きているという状態で終わってしまう。本当の自分が納得できる人生の結末というものを自分で作っていくことができなくって、結局悔いの残るような人生で終わってしまう。ということが案外とまた多いんじゃないかと思うんですけど。そうならないために、やっぱり常に将来どんな生活がしたいのかということを考えて、年齢が成長することによって変わってもいいんです。とにかくは将来こんな生活がしたいというものがあるかないかで人生がガラッと違ってきてしまう。生き方が全然違ってきてしまうということを是非考えてみてもらいたいと思うんですね。理想や夢は何十年か先のことと思いがちなんですけど、理想や夢というのはそれを考えてる人は今生きてる人ですからね。原理的には理想と言えども現実の只中にあり、夢と言えども現実の只中にある。どういうことなのかと言ったら、夢や理想とは今を生きる力なんだ。理想とか夢とか目標がないと今を生きる力が湧いてこない。理想がないと今何をしていいかわからない。夢がないと今何をしていいかわからない。理想も夢も目標も全部これは今を生きる力を作る原理なんですね。先の話じゃない。命を燃やして鮮烈な生き方をしたいと思ったら、どうしても我々は目標を設定しなければならない。理想を持たなければ、夢を持たなければならない。夢を持つことによって我々は今を鮮烈に生きる。今を本当に楽しく意味ある生き方をしていこうと思ったら、今を生きるために夢や理想を持たなければならない。夢や理想は必ずしも実現できなくてもいいんですよね。夢や理想があることが大事。目標があることが大事なんだ。そのことによって今自分が何をしたらいいのかが分かってくる。実際夢さえあれば人間はいかなる苦しみも耐えられるんですよ。夢がなくなってしまったら今の辛さに押しつぶされてしまう。夢さえあればいかなる苦しみにも耐えられる。夢がなくなってしまったら今の辛さに押しつぶされてしまう。将来どんな生活がしたいのかということも、人間は生まれてから死ぬまでの時間をどう生きるかという、人間は時間的存在と言うことができるんですけど。だから未来を意識しながら、未来に夢を設定しながら、今を生きるというのが時間的存在としての人間の生き方の基本であります。**

**命から抑えがたき欲求を湧き上がらせる。その方法論の2番目、理性を手段能力に使って命に問いを発する。そしてその命から欲求を引っ張り出す。人間が人生を生きるための基本的な課題、問いであります。ただ話を聞いてわかったというだけではなく、実践してもらいたいんですよね。感性論哲学は実践哲学であって、これまでの哲学のようにただ理想論をぶち上げてそのまま終わってしまうような哲学ではない。感性論哲学は、こうすればこうなるんだという、生き方と実現するべき目標をはっきりと具体的に語るという哲学ですので、もうやり方も全部話してるわけですから、あとはもうやるだけ。とにかく聞いたことを自分自身でやってみる。そういうことを是非お願いしたいという風に思います。**

**とにかくも結果を出すためには実践が欠くことのできない大事な課題。実践しなければ何事もわかりません。やったら本当のことがわかる。体験こそ宝、体験こそ真実だ。そして、真実を語る力だ。体験によって我々は人生がどんなものなのかを具体的に自分自身で掴んでいくことができる。職業というのもまさに毎日毎日が体験ですからね。職業を通して我々は人生とは何なのか、人間とは何なのかを掴んでいるというか、分かろうとしているわけであって、職業という体験を通して人生とは、人間とはを学べる・わかるというわけであります。是非こういう命から欲求を吐き出させるための方法論というものを使って、自分なりに命が燃えるような夢、欲求というものを持ってもらいたいという風に思います。**

**とにかく、基本的に意志の強い人間になろうと思ったら、命から抑えがたき欲求が湧いてこなければいけない。意志の強い人間とは欲求の強い人間であり、意志の強い人間とは大きな欲求を持った人間。それが意志の強い人間だということですね。欲求が湧いてこなくなったら人間は行動を止める。欲求が湧き続ける限り人間は行動を止めない。人生において大事な行動力・実践力は命から湧き上がる欲求があるかどうかで決まるわけであります。命から湧いてくるものがなかったら、命は燃えることがない。理性では燃えられない。若い方々なら恋愛という感情を通して、皆実感としてわかっているはずなんですよね。好きだという気持ちが湧いてくると、行動力が出る。そして命が湧いてくる。好きだという気持ちが湧いてこなければ、単に冷ややかに人を見ているだけ。それでは人生はつまらない。命から湧いてくるものがあったら人生は楽しい。命から湧いてくるものがない人は何か生きること自体が寂しい、つまらない。毎日毎日本当に楽しい生き方をしようと思ったら、とにかく命から抑えがたき欲求が湧いてくることが楽しい人生を生きるための基本原理だ。と言うことをよくわかってもらって、そしていつも何かしら命から湧いてくるものがある、そういう自分を作っていってもらいたいと思うんですね。**

**だけども、この欲求というものも意志の強さの原理として大事なんだけど、我々が人生において、人間として求めるものは意志が強いということ。意志の強さの原理として欲求が強いことは大事なんだけど、意志と欲求とは次元が違う。意志という字は、普通辞書を引くと意思の「し」は、志でなくて“思う”という字が書いてある辞書が多いですよね。これは詳しい辞書には両方書いてあるんですけど、意志は方向性があるものですので、志という字を書かないと本当の哲学的な意味での“いし”を表現することができません。是非、意志という言葉を使う時は、必ず意識の意と、志という字を書くように心がけてもらいたいと思います。思という字を書いたのでは、方向性がなくて、なんとなく心の中でとぐろを巻いてるみたいな状態で終わってしまいますので、あまりエネルギーを感じられないんですよね。意志は明らかに行動力を伴ったそういう気持ちからですので、これは思うではなく、志という字でないと本当の意志というものを表現することはできません。**

**人間が人生を生きるために、人間的な人生を我々が生きるために必要なものが意志ですね。ではその意志が、強い人間であるために欲求は大事だと申しましたが、欲求と意志はどう関わっているのか、どういう違いがあるのかを考えていく必要があります。**

**例えばの話、金が欲しいは欲求です。その場合は理性を使って「どうしたら良いか」を考えます。金を手に入れる方法はいろいろあって、とにかくは仕事をすることもある。宝くじもある、競輪競馬もある、カツアゲもある、ひったくりもある、泥棒・強盗もある。いろいろな方法で金を手に入れることはできる。その中でどういう方法で金を手に入れようかと考えて、この方法だと決めたときに意志が決まるんです。いろいろな方法で金を手に入れることはできる。その中でどういう方法で金を手に入れようかと考えて、この方法だと決めたときに意志が決まるわけですね。この欲求と意志との間には、理性によって決断するという行為が間に入ってくるわけであります。本当に意志の強い人間になる、人間的な意志の強さを持つためには、決断とはなんなのかということをちゃんと考えていかないと、欲求が強い人間だけではなく、意志が強いという状態の人間になろうと思ったら、決断とはなんなのかをちゃんと分からないといけません。本当の意志の強い、人間的な人生というものを作っていくことができる人間にはなりません。**

**では、決断とはいったい何なのか。決断というのは決めるという字と、断つという断という字が合わさって決断。一般的に決断という言葉を辞書で引くと、選び取ること。選び取るだけでは決めただけであって、断（だん）、何を断つのかということが表現されていない。決断において最も大事なものは、この断という字に相当する行為をすることができるかどうかで、人間的な意志が強い人間になれるかどうかが決まるわけですね。決断とは何なのか。例えば、人生において一番大きな決断は結婚だと言われますよね。結婚も就職も決断なんですよね。決断というのは結婚を例にとれば、いろいろ結婚の候補は何人かいる。誰と結婚しようかいろいろ考えるわけですよね。ある人に決めて、結婚する。決めただけで行ってしまうと必ず結果として悔いと迷いが生じるんですね。決断とは言え、決めただけでは必ず人生にはいろんな問題・悩みが出てくる。問題・悩みが出てくると、決めただけでいってしまった人はどうなるかって言うと、「この人と結婚したからこんな問題・悩みが出てきたんだ」「あちらの人と結婚していたならばこんな問題・悩みは出てこなかったのかも。失敗しちゃったな」と、「あちらの人にしておいた方が良かったな」と思って、一瞬にして今の結婚生活に不幸を感じるというか、不幸になってしまう。自分の意識が分散する。自分が選んだその人に自分の情熱を傾けることはできない。だから相手にも十分な満足を与えてあげることができない。つまり、相手をも不幸にしてしまう。そしてその人との結婚生活において、どんなことをしても全部「失敗しちゃったな」という気持ちがあるもんですから、熱が入らない。全てが中途半端な状態で終わってしまう。これが悔いが残る人生であります。「ひょっとしてあちらの方が…」というのは、迷いなんですよね。これは理性ゆえの迷いと言って、理性は人間に完全性を求める。だから、理性は問題の出てこない、悩みの出てこない道を求めるのが理性的な人生の生き方であります。でも、人間は不完全ですから、誰と結婚しても問題・悩みが出てくる。問題や悩みが出てこない結婚はない。問題や悩みが出てこない就職もない。どの会社に就職しても必ず自分が不完全なるが故の問題と悩みは出てきてしまうんですね。誰と結婚しても自分が不完全なるが故の問題と悩みが出てきてしまう。理性的な人間は問題が出てくると、「あ、間違っちゃった」と思うんですね。悩みが出てくると「あ、間違った道を選んでしまった」と思うんですね。どうしたら問題と悩みが出てこない道を選択できるんだろう…と、これが理性ゆえの迷い。**

**「ひょっとしてあちらの方が…」と思うことによって一瞬にして今の自分が不幸になってしまう。悔いが出てくる。では、迷いと悔いのない人生を歩んでいこうと思ったらどうしたらいいのかと言ったら、多くの可能性のある中からある一つの道を選んで、そして結婚することになったならば、そのとき自分が選ばなかったものの中にどんなに捨てがたい素晴らしいものがあったとしても、あるものを選んだのならば他のものへの思いを断ち切る、逃げ道を塞ぐ、退路を断つ…。「俺にはこいつしかおらん。俺にはこの道しかない」という風に決めるのが決断。決断とは捨てる勇気。この捨てる勇気のない人間は、必ず人生において迷う。そして人生に悔いを残す。あるものを選んだのならば他のものへの思いを断ち切れないと迷いのない人生はやってこない。決断の人生とは、あるものを選んだのならば他のものへの思いを断ち切る。これが、断だ。「自分にはもうこいつしかおらん。自分にはこの道しかない」その後は、どんな問題・悩みが出てきたとしても「俺にはこの人生しかないんだ」と、バカになって乗り越えていく以外に自分の人生はない、生き方はないと決めること。これが決断の人生なんですね。もう自分の生き方は出てくる問題・悩みを乗り越え続けるしか自分の人生はない。だからもう迷いがなくなってしまうんですね。そして出てくる問題を乗り越えていく。どんな困難でも乗り越えていくぞという不撓不屈の意志を作ってくれる原理なんですね。**

**なぜこれが大事なのかと言ったら、成功した人というのは問題と悩みを乗り越え続けた人なんだ。問題や悩みから逃げた人は必ず失敗する。出てくる問題は乗り越え続けないと成功と幸せはやってこない、これが人生だ。あるものを選んで他のものへの思いを断ち切る、この捨てる勇気が決断なんですね。決断ができることによって我々は、自分の歩む道はこの道ひとつしかない。だから後はどんな問題・悩みが出てきてもそれを乗り越え続けて生きるだけだと腹が決まる。決断によって我々は人生の本堂に入るんですね。確実に成功できるという生き方になっていくわけであります。成功した人は皆問題や悩みを乗り越え続けた人なんだ。問題や悩みから逃げた人は人生において結果を出すことができない。意志が弱いということになるわけですね。**

**やっぱり現実的には問題や悩みが出てくると、ついつい逃げたくなる。問題の出てこない道を探し求める…これは明らかに人間の生き方において逃げの人生だ。問題や悩みのない道を探し求めるのは、「安逸を貪り、易きに流れる」楽がしたい人生を望んでるんですね。本当に我々は成功と幸せを手に入れる人生、楽な人生ではなくて成功と幸せを手に入れる人生を望むならば、問題の出てこない道を探して求めてはならない。とにかく自分の歩む一本の道を決めて、そして後はその道から出てくる問題を乗り越え続ける努力をする。これしかないんですよ。その生き方が、その人なりに成功と幸せを手に入れる人生の本堂と言われる一本道なんだ。問題や悩みの出てこない道を求めるのは弱い人間の生き方になってしまうわけであります。安逸を貪り易きに流れる人生だ。楽がしたいだけの人生だ。だけど人間は不完全ですから、問題や悩みの出てこない人生はありません。間違った生き方をすれば、必ず人間は堕落します。当然のことながら成功も幸せも遠のいてしまう。絶対手に入らない。**

**とにかく決断というものによって、我々はどんな困難でも乗り越えていくぞ、という不撓不屈の意志を自分のものにすることができるわけであります。決して楽がしたいという人生の目標を持ってはならない。問題や悩みが出てこない人生を望んではならない。問題が出てくることを恐れてはならない。不完全な人間にとって問題と悩みは避けて通れない人生の課題なんですね。よく「俺には全然悩みなんかない。問題はない」という方もいらっしゃるんですけど、それは自分には問題がないかもしれないけど、そのために自分の周りの人がどれだけ我慢して、耐えているのかを分からなければならないですね。自分に問題がないのは周りの人が我慢しているからだ。周りの人の忍耐に対して感謝をするという言葉を捧げる、投げかけなければ、物事はうまくいきません。人間における幸せというのは、うっかりすると人の不幸の上に立っているという場合が多いんですよ。「俺は幸せや」と言っているご主人の下では奥様と子どもたちが耐えに耐えているという家庭もある。奥さんが幸せですと言っていて、奥様が癒しのセラピーなんかに行っていて、「ハッピーです」なんてことを言って帰ってくることもあるんですけど、そういう奥様が「ハッピー」だと言っている家は、必ずそのためにどれだけご主人と子どもたちが耐えに耐えて苦しんでいるかということを考えなきゃいかん。**

**それほど人間において完全でなんの問題もないような幸せなんてものはありません。幸せは、必ず問題と悩みを乗り越えた結果、手に入るものであって、問題を恐れない生き方によって我々は本当の幸せというものを自分自身で作っていって手に入れることができるんですよね。本当に自分が幸せになろうと思ったら、必ず自分の周りの人を幸せにしないと自分は幸せになれないんですよ。自分が幸せになりたいと思ったら必ず周りの人を犠牲にします。他人の不幸、周りの人が不幸だったら、結果としてまた自分が不幸になっちゃうんですよね。嫌な感じになってしまって結果として、幸せだと言い続けていられないような状況になります。**

**仕事とを通し人を幸せにすることによって自分も幸せになれる活動が職業なんですよね。自分の幸せを考えたら必ず人を犠牲にする…人を不幸にする…職業において成功する秘訣は、まず周りの人を幸せにする。そのことによって自分も幸せになれる。そういうことが重要な原理であります。まず自分が幸せになりたいと思ったら必ずそのために周りの人を踏み台にし、犠牲にする。周りの人に我慢をさせ、忍耐をさせてしまうことになってしまう。人生において問題・悩みは避けることのできない重要な課題ですけど、問題や悩みが出てきた時に他人のせいにして責任転嫁しないで、どんな問題でも「俺が選んだ道から出てくる問題なんだから、俺が解決し、乗り越えていくしかないんだ」という決意のもと、「俺に任せておけ。俺が何とかする心配すんな」と言って、その問題に立ち向かうという。それが周りの人がついてくるリーダーの姿勢であり、また家族が信頼するご主人の姿なんですよね。問題から逃げる、そこには人がついてくるような人間は出てこない。リーダーは常に問題から逃げないで、「俺が何とかする。心配すんな。俺に任せておけ」と言える逃げない姿勢が、ものすごく大事なことであります。**

**そのためにも決断というものは大事ですね。自分が選んだ道から出てくる問題から逃げないで、自分で選んだ道から出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていくという生き様というのが、不完全な人間でありながらも信頼を獲得する生き方になってくる。**

**就職においてもやっぱり 同じで、どんな問題が出てきても「ひょっとしたらあちらの会社の方が良かったんじゃないか」と思う…そういう迷い、問題の出てこない道を求めるような、迷いの道に入ってしまってはならない。一旦決めたのならば、どんな問題や悩みが出てこようと、その問題・悩みは自分が選んだ道から出てくる問題なんだから。出てくる問題は全て自分を成長させるために自分のために出てきてくれてる問題なんだと考えて、出てくる問題を乗り越え続けていく努力をすることによって、自分を成長させていくという生き方をしていかなければなりません。**

**問題が出てこないという状態は、ある意味で自分自身が甘やかされていると言える。そこには本当の成長はありません。問題がなければ今のままでいいことになりますから。それは今の自分の力に頼った、今の自分の力の限界内の仕事しかしていないという状態。人間が成長するときには必ず問題が出てきます。その問題が出てくることによって自分の新しい力が加わって、人間が成長して仕事ができる。そういう意味でも決して問題が出てこないことを願ってはならない。家庭生活においても、会社の仕事においても、問題が出てこないことを願うような弱い人間になってはならない。意志の弱い人間になってはならない。意志の弱い人間は問題が出てくるたびに反省したり、問題が出てくるたびに逃げる、問題を避けて通ろうとする、物事を中途で放棄する、辞めてしまう、意志が弱い状態になってしまうんですね。意志の強い人間になるためには、決断という捨てる勇気が大事なんだということ是非考えてほしい。**

**一旦決めたからには、「ひょっとしたらあちらの方が」と思ったらいかん。決めたからには自分が選んだ道から出てくる問題を乗り越え続けていく…これだけが成功する人間の生き方なんだということをぜひ忘れないでおいてもらいたい。問題の出てくる道を歩み続けていく、そこに成長があるんだ。**

**決断によって初めて不撓不屈の意志、どんな困難でも乗り越えて行くぜという意志の強さが作られるんだ。これはどんな仕事をしていても、全ての職業人に求められる仕事への姿勢、人生の生き方の基本なんですね。決断にかける。自分が決断したことに自分の人生をかけていく。決断にかけること、これがプロとしての仕事の仕方の基本であります。プロは逃げない。出てくる問題を待っていたかのように問題を乗り越え続ける。潔い勇気を持って、仕事をしていく。そこにプロとしての清々しい仕事の仕方の姿勢というのがあるんじゃないかなと思いますね。**

**それでは後半の話に入りたいと思います。**

**まず決断ということの大切さを是非よく心に留めておいてもらいたいんですよね。あるものを選んだのならば、そのとき自分が選び取らなかったあるものの中にどんなに捨てがたいものがあったとしても、あるものを選んだのならば、他のものへの思いを断ち切る。この捨てる勇気が決断ということにおいて一番大事な課題であります。皆それができなくて、あるものを選びながらも他のものへの思いを残す…そのことによって人生の迷い、それから悔いというものが生じるということですね。決断によって意志が決まる。欲求の強さと意志の強さ。どんな問題が出てきても、出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていくという意志の強さ。それに欲求の強さが合体して、不撓不屈の意志という意志の強さができあがっていくわけであります。**

**それが人生の生き方の基本なんですけども、次は出てくる問題をしらみつぶしに乗り越え続けていくと言っても、問題を解決できないと人生を前に進めて行くことができません。どうすればよいか。まず大事なことは、問題というものは自分を成長させるために出てくるもの。会社を発展させるために出てくるもの。社会を良くするために出てくるものという認識が基本的に大事であります。問題というのは、問題がなければ今のままでいいということになります。あらゆるものの発展というものが止まってしまいます。問題が出てくることによって、「このままではいかん」というので「変えていこう。どうしたらいいんだろう」ということで、今までにない新しい力や新しい方向性が見えてくるわけです。社会では毎日のように犯罪や事故・事件が起こっています。犯罪も事故もあってはならないと思うが、犯罪と事故がなければ社会は停滞する。起こってはならない犯罪すら、あってはならない事故すら、社会を良くするために、社会を発展させるために出てくる避けがたい必然的な現象なんだと考えておく必要があります。犯罪も事故もない社会は停滞する…犯罪も事故も起こることによって、「もう二度とこんなことはあってはならない！どうしたらいいんだろう？」と考えて、そして社会は少しずつ良くなっていく。**

**犯罪というのは結局、罪を犯した人が自分の命をかけて、この社会この時代に存在する、あるいは目に見えない所に潜在する時代の大きな課題を命を張って多くの人に教えてるんだ、という風に言えるんですね。犯罪がなければ今のままでいいことになりますから、犯罪というのは今の時代の大きな問題点、欠点を命を張って社会に教えてくれている…そういう行為なんですね。事故が起こると、そういう事故が起こらないように、ということでいろいろ工夫をして、事故が起こらないような形のより高度な技術を開発する…そういうことも出てくるわけですね。事故がないと改良改革は進んでいかないですよね。新幹線の浜松駅を降りて地下道を入っていくと、壁にすごいことが書いてあるんですよ。「技術は永遠のロマン」と書いてあって、さすが技術の発祥の地・浜松だなと思いますね。**

**技術は問題を解決する力、これが技術力というものですよね。そういう技術力というのは永遠のロマンだと。問題が出てきて技術によって問題を解決して乗り越えていく…限りない永遠のロマンを持っているんだ。問題というのは、実は我々にロマンを与えてくれる。意味を与えてくれる。希望を与えてくれる。未来を見せてくれる…そういう働きが問題には含まれています。問題を乗り越えていくことに夢がある。**

**技術者というのは問題を恐れるどころかむしろ問題が出てくることを歓迎して、「よし乗り越えていってやろう」という意欲が問題によってかきたてられる。問題というのは、あらゆるものを発展・成長させるために必然的に出てくる現象なんだ。だから我々は問題を恐れてはならない。問題の前に立ってたじろいではならない。問題こそロマンなんだ、という思いを職業人は持っていなければなりません。問題を乗り越えていくことに職業人としての本当の仕事がある。問題を乗り越えていくことによって新しい道が見えてくる、新しい道が切り開かれていく…これこそプロの仕事だ。問題を乗り越え続けるところに生まれてくるのがプロの仕事という世界ですね。**

**会社に入っていろんな問題が出てくる、自分の身に降りかかる様々な問題は全部、もっともっと成長させてあげようという思いからいろんな問題が自分に降りかかってくるんだということであります。問題が出てくることによって、我々は命に潜在する新しい力を呼び起こして、能力においても人間性においても成長していくことが達成される。**

**感性論哲学では、職業とはなんなのか、仕事とはなんなのか。職業とはその仕事に従事する人間を人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性を持った、本物の人間に成長させる…そこに職業の人間的な意味があるんだと話しています。職業とはその仕事に従事する人間を人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性を持った、本物の人間に成長させる…。能力と人間性、両面において自分自身を成長させてくれる。仕事上のさまざまな問題は能力を成長させ、また会社は人間関係から生じる問題によって自分の人間性、人格を成長させてくれる。全て職業を通して与えられる問題は、自分自身を成長させるために出てきてくれている。その人にふさわしい問題しか出てこないんですよ。その人に降りかかる問題はその人の今持っている能力と人間性ゆえにその人に降りかかってくる問題しか出てこないんですよね。それを乗り越えていくことによって、その人は成長していくことができる。だから就職したからには、自分もこの会社で、出てくる問題を通して、自分自身を能力においても人間性においても成長させ、鍛えて磨いていこうと。どんな問題が出てきてもそれを恐れずにまた嫌がらずに、人間関係の問題もどんな問題も全部、自分の成長のために出てきてくれてるもんだと考えてください。そして、その問題から逃げずに挑んでいくという姿勢を是非持ってもらいたい。問題から逃げないで、挑んでいかないとその答えは出てきません。ちょっとでも逃げたいなとか、嫌だなと思ったら、潜在能力が湧いてくることを抑えてしまう。人生の問題は全てそうですけど、嫌だなと思って逃げていると、逃げれば逃げるほどますます問題は重く自分の肩にのしかかって来て、辛くなるんだけど、もう逃げられないと思って、踵を返して問題に向かっていき、そういう姿勢がちょっとでも出てくると、何かしらこの命からその問題を避けられそうな力が湧いてきて、さっきまでものすごく肩に重くのしかかっていた辛さがふっと、「問題を乗り越えられそう」と思えるように変わる。問題に立ち向かって行こうとすると、命から自分の底力が湧いてくる。そんなことも体験することができます。底力が湧いてくるということによって、当面の問題を我々は乗り越えていくことができるわけですね。**

**よく実業界、経済界では、その職業人・経営者が本物になるには、三つのうちの何かを体験しなきゃならないと言われます。その三つとはなんなのかと言ったら、倒産をする・大病になる・投獄…このうちの何かを体験しないと経済人・職業人として本物にはならないと言われるんですよね。でも、実際に別に倒産することもないし、大病になることもないし、投獄されることも必要ではないかもしれないんですが、それほどの辛さに直面して、本当に真剣にならざるを得ない状況、人生一度は地獄を見てそこから這い上がってくる経験をしないと本当のその人の底力は湧いてこない。そういう経験をすることによってその人の本当の個性というか、その人らしい能力と人格が顕現してくると言われています。もう浮ついたことは言ってられない。本当に真剣にならないと。地獄を見ることで命の輝きが出てきて、その人の本当の力、本当の個性が湧いてくるわけなんですよね。そういう意味では、今自分の持っている力では「なんともならん」問題にぶつかるということは、言ってみれば人生の地獄を見たという状態。その問題に押しつぶされないで、なんとかその問題から這い上がろうと思って必死に努力をする。そのときに自分の底力が湧いてくる。そのことによってその人の命が輝き始める。その人にしかない独特な才能や人間性が輝きだしてくる。どうしようもない問題でぶつかるということが人生においては大事な体験、人間的な成長にはものすごく大きな意味を持ってるんですよね。底力が湧いてくるということは大事なんですよね。底力が湧いてくることで本当の自分が出てくるんですね。本当の自分が出てくるという状況のために人生一度は地獄を見て、そこから這い上がってくる努力というのが望まれるわけであります。**

**皆さん方も何十年か会社でいろんな仕事をしている中で、「本当に何ともならん。今の自分の力では如何ともし難い」という大きな問題に直面されることが何度かおありになるんじゃないかと思うんですよ。そのときこそ、本当の自分というものが命から目覚めてくるチャンスだということを思い、理解の仕方をして、問題に立ち向かってもらいたいと思うんですね。今自分の持っている力で何ともならんという問題にぶつかることによって、それに負けずに頑張っていると、必ず命に存在する様々な能力が、諦めないで頑張っていると必ず湧いてきて、自分の当面する問題を乗り越えさせてくれるという結果が出てくるんですね。これが潜在能力の顕現と言われたり、気づきと言われたり知恵と言われます。気づきが湧いてくる、知恵が湧いてくる、潜在能力が湧き出てくるという人間になるためには、限界への挑戦に向かわないといけません。そうしないと命から湧いてくる新しい力、本当の底力は出てきません。底力が出てくることによって、初めてその人が独特の才能と人格を獲得できるようになる。そして、本当の個性的な存在感のある輝きを持った仕事ができる人物になっていきます。是非そういう自分の底力が湧いてくるという状況を何回か体験してもらいたいと思います。**

**逃げたい、誰かに助けてもらいたいと思ったらもう自分の底力は湧いてこない。問題を乗り越えられない。問題を乗り越えるためには、まず逃げない。そういう気持ちが大事。それらが自分の底力が出てくる条件を作ることになるわけですね。逃げれば逃げるほど苦しくなる。逃げられんと踵を返して問題に立ち向かっていくと、何かしら命から自分の底力が湧いてくるという体験ができます。さっきまで本当に辛かったのに、問題に立ち向かって行こうと思った瞬間に、肩にのしかかっていたその重さが半分ぐらいに減ってきて、「なんか乗り越えられそう」という感じになってしまうんですよね。それはもう自分の底力が湧いてきているという証明であります。仏教でも人生をたくましく生きるためには、まず人生逃げ場なしとよく申します。逃げても助からん。逃げれば逃げるほど辛くなる。問題には立ち向かうしかないんやということ。人生逃げ場なし、いつどこで踵を返して問題に立ち向かっていくか、それがその人の人生の出発点になるんですね。そこからその人の人生が始まる。そしてその人の底力が湧いてきて、その人らしい命の輝きが滲み出てくる。そして本物という人間が生まれてくるわけです。その人のすごい力が湧いてきて、人間は本当に個性的な本当に本物と言われる人物に成長していくことができる。今自分の持っている力でなんともならん問題にぶつかることも、人生の醍醐味として感じることができるような、そういう生き方をぜひしてもらいたいと思うんですね。まずはとにかく問題を乗り越えるためには、問題から逃げないという気持ちをどのように自分の中に確立するか。**

**具体的に問題を乗り越えるということはどういう風にしたらいいのか。基本的には問題を感じるのは感性。問題を解決するのは理性。理性でいろいろ考えて問題を乗り越えていくんですね。その場合、理性の使い方を間違えると、考えれば考えるほどますます苦しくなって、考えれば考えるほどますます悩んでしまう。答えを出すのは理性だから、理性の正しい使い方を知っていないといけません。問題から逃げないで頑張っても、その問題を乗り越えるための答え、結果を出すことができません。では、理性の正しい使い方は？ どのように理性を働かせれば、我々はどんな問題でも自分の力で問題を乗り越えて、人生を生きていくことができるのか。そのための理性能力は、客観性と普遍性の能力だという風に言われます。**

**理性能力を使って正しく答えを出すためには、物事を客観的に外から眺めてみるということをしないと、理性は正しい答えを出せない。闇雲にただ考えれば良いわけではないのです。答えが出てくるためには、理性にちゃんと答えを出せる条件・立場を与えてあげないと正しい答えが出せません。その条件は、客観性と普遍性なんだ。物事を客観的に外から眺めてみる。また物事の全体を眺めて見ることができるそういう状況・立場を与える。**

**例えば、深い森の中に迷い込んでしまった場合、どちらの方に進んで行ったら早くその森から出られるのか。迷いながらあっちに行ってみようこっちに行ってみようと、当てずっぽうでやっていると、あっち行ったりこっち行ったりしてる間に疲れ果ててしまって、野垂れ死んでしまいやすい。**

**では深い森のなかに迷い込んでしまった場合、どうしたらその森から抜け出して助かるのかと言ったら、森の中で一番高い木のてっぺんに登って、森全体を眺めたら、道が見つかる。一発で答えが出るわけですよね。これが客観性と普遍性の能力である理性を用いた答えの出し方です。**

**実際問題、森のなかにある一番高い木を探しているだけでも死んでしまうのでは？ とか、そんな高い木に登れるのか？という話もあるのですが、それは横に置いておいて…とにかく森の中で一番高い木のてっぺんに登って、森全体を眺めたら、道が見つかる…ということです。**

**これを現実の社会・会社に置き換えて、応用していくとすると、悩みながら考えてはいけないということ。悩みながらだと悩みのどツボにハマってしまう。結果として八方塞がりになってしまう。悩みながら考えると、物事を悲観的に考えてしまう。今からしようとしていることのマイナスポイントばかりが見えてしまう。最悪のケースですと、自分で命を断ってしまう…。そうではなく、友人にその話をしてみる。多くの場合、友人は「じゃあ死ね」とは言いませんから。「死ぬ気になったら何でもできるやないか」と言ってくれます。他人事だから。自分事だと死んじゃうことですが、他人事なら、外から問題を見たら「待てよ」と言える。この距離感が問題を解決する距離、客観性というもの。もう少し分かりやすく言うと、自分が何かしら問題や悩みを持ったのなら、決して悩みながら考えないで、「もし、これが他人の悩みだったら」と考えて、他人にならどうアドバイスするかな〜と考えてみるんです。これが自分の悩みを外から客観的に眺めてみるという立場に理性を置くというやり方なんです。会社の経営の問題も人間関係の問題も家庭の問題もどんな問題でも、必ずその問題を他人事にする。その悩み、問題が他人から自分にどうしたらいいか相談されたら自分はその人にどう答えてあげるかと置き換える。よく週刊誌に書いてある芸能人の悩みなんかでも、その芸能人本人はもう悩んで悩んで本当に身も細るほど悩んじゃってんだけど、週刊誌に書いてある記事を読まれる奥様方は、一発で適切な答えを出しているんですよね。他人の悩みなら、見たり聞いたり読んだりした場合に正しい答えが出てきちゃう原理なんですね。**

**また会社の経営でも同様に、どんなに優秀な経営者でもなかなか会社の大きな問題というのは自分で解決することができなくて経営コンサルタントの先生に相談して、問題を解決することをしてしまいやすい。どんな大きな会社でも赤字になったり、倒産したりってことがあるわけですよね。その経営者本人の力ではどうしようもないという状態に陥って、苦境に立つわけですね。そんなときに経営コンサルタントの先生に相談して、帳簿を見たり、話をしたりして「ここは問題ですね」なんて話をして、問題を指摘されてそれ通りにしたら、うまく問題を乗り越えられた…なんてことがよくあるわけであります。**

**倒産した会社でも、再建屋さんは再建してしまいますからね。倒産した会社の社長さんも立派な社長さんなんだけど、自分の会社の倒産を救えなかったんですよ。だけど再建屋さんは倒産した会社を再建するわけですからね。答えがないわけじゃない。必ずあるんですね。なんでその先生方は社長さんの問題を解決できるか。それは他人事だからなんですよ。他人事とはその状況をどツボに自分を置かないで、外に置く。外から客観的に見る。そうすると答えが出てくる。そういう構造が問題と、その問題を解決する人間との関係性にあるわけですね。これが先ほど申した森から早く出る話と同じです。森の中に生えている一番高い木のてっぺんに登って、そこから見たら一発で答えがわかると言うね、人生を生きる力になるわけですよ。**

**どんなものでも他人事にしたら全部自分で解決できる。これを知らないと細木数子さんのところに相談に行っちゃう。うまく解決できても、今後その人は自分で問題を解決できない。他人に頼っていくしかない、弱い人間になってしまう。どんな問題でも全部自分の力で乗り越えて行ける…そういう自信を持った生き方をしようと思ったらこの方法しかない。全部他人事にすると解決する道が見えてくるんです。客観性、客観的にものを見るという視点の素晴らしさなんですよ。**

**ここにはね、単に客観性という問題だけではなくて、もうひとつ大事なことは、自分で自分の問題を解決しようと思ったら出てこない答えでも、他人に教えてあげようという立場に自分を置くと、他人に教えてあげようという愛が命から出てきて、自分でその問題を解決する力以上のものが生まれる。そしてますますその問題に対する答えが湧いて出てきやすい、自分の力以上のものが出てくる。私もその頃体験しました。高校の頃、数学の非常に難しい問題があって、自分でいろいろ頑張っているんだけど、答えが出てこない。しかし、友人が私のところに相談に来た。自分でも困っているのに教えられない…でも、せっかく相談に来てくれたのだから、なんとか力になってあげようと。そこからまた教えてあげようと考えていたら、「あっ！」とひとりでやっていたときには気づかなかったことに気づき、答えの出し方にたどり着けた。そして、友人に教えてあげられた。自分でもびっくりしました。他人に教えてあげようという愛が命から出てきて、自分でその問題を解決する力以上のものが生まれたのだろうと思っています。皆さんも一度試してみてください。自分の悩みではなく、他人の悩みだと思って、考えてみてください。「俺ならこう言ってあげるだろう」ということを自分でやってみるんですよ。人間は不完全ですから、一度で解決できないかもしれない。でも、行動を起こすと状況が動きます。ますます状況が良く見えてくる。そこからまた他人事で考えてみる。これを繰り返す。創意工夫を加えながら、諦めないで取り組むと、問題解決にたどり着ける。これが理性の客観性と普遍性の能力である。客観的に全体を見ることができる立場に立たせてあげると、理性は答えが出せる。そういう立場を与えてあげないと理性はかえって迷って答えが出せない…そういうことであります。先程の例え話として深い森の中に迷い込んでしまったときにどうするかという話を是非覚えておいてもらって、いろんな苦境立たされたときにそれを使って乗り越えてもらいたい。この方法さえちゃんと自分が体得できたら人生誰にも相談せんと全部自分の力で、どんな問題でも解決できる。**

**これは頭が悪いとか良いとかという問題ではない、どんなに勉強して頭がいい人でも、物事を客観的に見るという立場に理性を立たせてあげないで考えるということをしていたら、必ず人生において迷って、自ら命を絶つことなってしまうんですよ。昔、東京に第一高等学校があって、そこで哲学を勉強していた学生が人生とは何かということを考え始めて、考えても答えが出ない…「人生不可解」と言って滝に身を投じて死んじゃったという話があるんですよね。人生というものを客観的に見ないで、人生という中に自分の身を置いて、人生とは何だということを知ろうとあれこれ考えてもなかなか答えは出ない。それで、人生無意味だという風に最終的に判断してしまって、人生生きていても無意味なんだからと、死んでしまったわけですね。これが人生とは何かという問題の中に身を置いて考える結果、出てくる答え、出てくる結末なんですよ。大事なことは、人生そのものに意味があるんじゃないんだ。人生を意味あるものにするのが理性の役割なんだ。そのために命は理性を作ったんだ。人生そのものを生きがいのある、価値のある、意味のある、素晴らしいものにしていくということが生きるということなんだ。人生に意味を与えることが生きるということ。人生と言ったって、生まれてから死ぬまでの間ですから。死んだらパー。何も残らない。人生無意味だってなってしまうんですよ。人生の中に身を置いて考えたらね。そうではなくて、人生というものに意味を与える努力が生きるということ。人生を価値あるものにするのが生きるということなんだ。そのために理性は必要なんだ。そのために命は理性を作ったんだ。理性で人生を外から眺めてみて、初めて理性が理性としての役割をちゃんと果たすことができる。人生に意味があるかないかを判断するのは理性の仕事じゃないんだ。理性の仕事は人生を意味あるものにするのが理性の仕事なんだ。と考えたら、死ななくて済むんだ。これも理性という能力を客観的に見ることができる立場に立たせてあげて、人生というのを考えるか、あるいは人生の中に理性を入れてしまって、そして人生とは何かを考えるというね、そういうことをしてしまう。これは問題の立て方の間違いなんですね。人生とは何かという科学的な問いに対して、人生とは何か、事実として知ろうとするような形で人生を考える。だから人生は全て無意味だってことになってしまうんですよね。そうではなくて、人生そのものに意味があるかどうかではなくて、人生を意味あるものにしていく、素晴らしいものにしていくということが理性の役割なんだと考えることによって、我々は人生無意味から脱却できる。理性という能力を客観性と普遍性の能力という条件付きの能力として認識して、理性を正しく使うことによって出てくる人生の救いなんですよね。**

**結婚生活でも結婚生活そのものの中に自分の身を置いて、あれこれ対立して批判し合ってと、そういうことになってしまいやすいですが、結婚というものを意味あるものにしていく、素晴らしいものにしていくのが人生というものなんだ。そのために理性を使う必要があるんだと考えたら、我々は夫婦の間のいろんな意見の違いや嫌なことで喧嘩するという状況から抜け出すことができて、結婚を意味あるものにしていく仕事が結婚生活なんだと考えることができる。人生の不幸から脱却できるということになる。とにかく問題を解決して答えを出そうと思ったのならば、理性の正しい使い方を覚えないと理性を使ってもますます苦しくなって、ますます迷ってしまって八方塞がりになってしまう結果になる。そうならないために理性を使う場合には、理性は客観性と普遍性の能力だ。物事を外から眺めてみる、物事の全体を眺めてみる、そういう立場に理性を立たせてあげないと、理性は問題を解決する正しい答えを出すことができないんだ。この理性の使い方、原理を是非忘れないでおいてもらいたいですね。**

**これは、感性論哲学という哲学の立場から、理性という能力は我々が人生を生きるための手段能力であって、人間が理性を使いこなさなければならない、我々が理性に支配されてはいかんのだと言うね、この立場に立って初めて見えてくる理性の働かせ方、使い方なんですよ。だから哲学科で勉強した学生や哲学の先生ですら、理性の正しい使い方についてわかってない人が多いんですよね。理性は客観性と普遍性の能力だ、という言葉はあるんですけど、それは具体的にどういうことなのかということは、大学で聞いたことがないんだ。だけど、感性論哲学の立場で理性の奴隷になったらいかん、理性に支配されたらいかん、理性を人間が支配して、理性を人間が使いこなせないと、本当の命と理性との関係性というものをちゃんとを正しく導いていくことはできないんだ。感性が主体で、理性は手段だ。そういう理性に対する意識になることによって初めて、今申し上げたような理性の正しい使い方をすることができる。それによって我々は全部自分一人の力でどんな問題でも人生を乗り越えていけるんだと。そういう力を作り出すことができたんですよ。感性論哲学を学んだ一つの証として、理性の正しい使い方を覚えておいてもらいたい。やり方ひとつで本当に人生は全然怖くなくなってしまう。どんな問題でも全部解決できる。**

**よく夫婦喧嘩は犬も食わんと言いますけど、夫婦はもう本当にお互いが自己中心的になってガチガチでね、すごい喧嘩をするんですよ。でも、それを他人が見たら「なんでそんなことぐらいでそんなことするの」と言える。その他人の目を夫婦がちゃんと持てるかどうかで人生は変わってくるんですよ。子どもに対する虐待なんかでも、どツボにはまるから虐待してしまうんですよ。他人の目で見たらね、そんなことくらいでそんなことするのおかしいやないかと。他人事なら言えるんですよ。虐待している本人でもそれを客観的に見て、大変なことやと思ったら、そんなことしない。でも中に入ってしまうと虐待してしまう。外から状況を見ないと全体が見えなくて、その中に入ってしまうから全体が見えなくって虐待したり喧嘩したりしてしまうんですよ。他人の目で見たら、「なんでそんなこと」と言えるんですよね。是非客観性という、物事を外から眺めてみるという目を理性にちゃんと与えてあげれば、人生は怖くない。全部自分の力で乗り越えていける。そういう自信が湧いてきます。是非何かしらいろんな問題で悩みにぶつかったときに、その方法を使ってみてください。必ずうまくいく。全部乗り越えられる。でも、やっぱりなかなかいろいろやってみたけどうまくいかん、どうしようもないって状況に落ちてしまって、見込みがないなと思って、途中で諦めてやめてしまうということになってしまう可能性もある。諦めずに頑張り続けるという不撓不屈の意志を顕現しようと思ったのならば、最終的にはどういうことを知らないといけないかと言ったら、「どんな問題でも答えがある。どんな悩みにも答えがある。答えのない問題はないんだ。諦めなければ必ずどんな問題でもどんなことでもうまくいく」と思うこと。決して途中で諦めたらいかん。それがちゃんとわかってくると、どんなに苦しい状況でも、「うまくいくまでやめんぞ」という気持ちが出てくるんですよ。**

**あのノーベル物理学賞をもらった名古屋大学の教授、実は3000回以上も失敗している。だけども、やめなかった。ある実験をしたときにそのやり方を間違えてしまったんだけど、間違えたばかりにとんでもない発見ができた。と、おっしゃっていました。でも、普通3000回も失敗したら、もういくらなんでもこれはいかんわと思ってしまうものなのに。でも、技術は永遠のロマンなんですよね。どんな問題でも乗り越えられる。とにかくやめなかった。実験自体は失敗なんだけど、失敗した実験がとんでもない結果を出してくれて、青色ダイオードを発見できた。これもやっぱり、どんな問題でも答えがあるんだからやめたらいかんという実例ですよね。**

**なんで一体どんなものでも答えがあるんだと言えるのか。その根拠は？ 今自分の持っている力ではなんともならんという問題は、それは潜在能力を引き出すために出てきている問題なんですよ。それは、実は母なる宇宙がその人を成長させるために、今持っている力を超える力を与えてくれるための問題なんです。人智を超えた天の計らい。母なる宇宙の思いが、自分を成長させようと与えてくれた問題なんですよ。**

**なぜそう言えるのか。母なる宇宙は命を進化させるために環境の激変という問題を生物に与える。うっかりしたら生物は絶滅するかも知らんというような大問題。それほどの大問題も、実は母なる宇宙が自分の産んだ子どもである命を進化させようと思っての愛ゆえの試練なんですよね。だから環境の激変というものがないガラパゴス諸島の生物たちは、ずっと何万年も何十万年前と同じ形のまま、進化していない。今の生物が持っている力で何ともならんという問題が与えられないから、新しい力が出てこない。だから進化してないんですよね。宇宙は基本的に生物を進化させるために環境の激変という苦難を与える。そのことによって生物は新しい能力を顕現させて、新しい能力が命の形に反映されるもんですから命の形が変わって進化して、どんどん生物は新しい形になっていくわけです。問題も母なる宇宙が与えてくれる。答えも命から湧いてくるんですよ。潜在能力も命から湧いてきて問題を乗り越えることができるわけです。命から湧いてくる答えとは、潜在能力と言われて、それはつまり遺伝子である。遺伝子は生まれながらに母なる宇宙から与えられたもの。答えも生まれながらに持っているもの。どんな問題も答えとつるんでいる、談合している。答えは問題が出てくる前から命の中にある。問題が出てきた瞬間から答えはある。つまり、答えのない問題は出てこない。**

**だから、「うまくいくまでやめたらいかん」。問題が出てきた瞬間から答えはある。つまり、答えのない問題は出てこない。どんな問題でも諦めたらいかん。**

**理性をちゃんと正しく使って、物事を客観的に眺めてみて、そして判断する。それさえ忘れなかったら人間はどんな問題でも全部自分の力でちゃんと乗り越えていける。そういう生き方ができるように命はちゃんと仕組まれているんだ。本当に問題も母なる宇宙が与えてくれる。答えも全部母なる宇宙が、命に生まれながらに与えてくれている、問題は命の中にある答えを引っ張り出すために出てきてるんですから、もうこれは完全にもつるんでいる。談合、話し合って決めているようなもの。ちゃんとうまくいくようにできているわけですよね。だからとにかく絶対諦めたらいかん。どんなことで諦めたらいかん。必ずうまくいくんだから、必ず答えが出るんだから、必ず成功するんだから。答えが出るまでやめない。このことがわかってくれば、結果が出るまでやめないという生き方ができる。これこそまさに不撓不屈の意志。本当に意志の強い人間になるための最終兵器、最終の条件です。どんな問題でも全部答えがある。必ず答えがあるんだから出るまで諦めない。必ず物事はうまくいく。本当にあのノーベル賞の問題でも3000回も失敗して、その次に行った失敗の実験が成功。結果を与えてくれた。これこそまさに天の配慮と言うか、本当に母なる宇宙の愛ゆえの試練と言うしかないような出来事だと思います。**

**本当にそういう意味では諦めない。必ずうまくいくという信念が大事で、問題はすべて母なる宇宙の愛による働きであって、あらゆる問題は母なる宇宙の愛が与えた試練なんだ。自分を成長させるために出てきてくれている問題なんだから、そこから逃げてどうするんやって。そういう思いになれるわけですよね。ちょっと頑張らないかんなと。とにかく人生を生きる上で、全ての人に求められる力は意志の力、不撓不屈の意志。どうしたらどんな困難でも乗り越えて行くぜという強い意志の力を自分のものにすることができるか。その強い意志を作る方法論を今日はお話をさせてもらいました。**

**とにかく意志の根底には欲求がなくてはならない。欲求こそ行動力、意志がなかったら行動力がないのだから実現できませんよね。欲求のないところでどんだけ意志が働いても人生辛いですよ。欲求が生まれてくれば自然に行動しますから、全部楽しくなるから人生楽しいですよ。命から湧いてくる限り、行動をやめない。命から湧いてくるのがなかったら人間は行動を自然にやめてしまう。命から湧いてくる欲求・欲望・興味・関心・好奇心、これがある限り人間は人生をたくましく生きていくことができる。人生を生きるためには欲求だけでは野獣だから。人間的な人生を歩むためには意志の力が必要。意志の強い人間になるためにどうしたらいいか。まずは欲求の強さが大事だ。欲求の大きさが大事だ。その次に本当の意志の強さを作るためには、決断をしなければならない。あるものを選んだのならば他のものへの思いを断ち切る。「俺にはこの会社しかない。俺にはこいつしかおらん」だからもう後は出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていくだけが俺の人生だと思ったら、どんな困難でも乗り越えていける。問題を解決するためには理性の正しい使い方を忘れないで、全部他人事にする。「俺に相談されたらどう答えてあげるか？」“夫婦喧嘩は犬も食わん”。他人の立場に立ったら夫婦喧嘩なんてやっていられない。明確に問題を乗り越える答え・力は他人の立場に身を置いたら出てくる。自分のことを他人事にして、どうしたらいいか考えたらもう答えは一発。すぐ出てくる。是非この生きる力を早くものにして、苦しみに負けないで問題に押し潰されないで、たくましく人生を生きて素晴らしい仕事を残していってもらいたいと願っております。どうもありがとうございました。**